

2019年10月31日

Vol
129

IMFの世界経済見通し そんなに景気って悪いの？

IMF(国際通貨基金)は10月15日に最新の世界経済見通しを発表しました。

世界経済の成長予測について、2019年は3.0%、2020年は3.4%と今年7月時点の予測から下方修正しました。米中貿易摩擦の影響や地政学的リスクの不透明感の高まりなどが景気低迷の要因としています。

3.0%成長の予測は「世界金融危機後の2009年以降で最低」となったことから、ニュースや新聞では、まるで景気が「後退」しているかのように報道されました。投資家のなかには「思ったとおり、相当悪くなっているな」とか「やっぱり、しばらく投資は控えておこう」と思われた方もいるかもしれません。

確かに世界経済の成長のスピードが落ちていることは事実です。しかし大事なことは、「世界経済はプラスを続けている」ということと、「マーケットは常に先を見るもの」ということです。





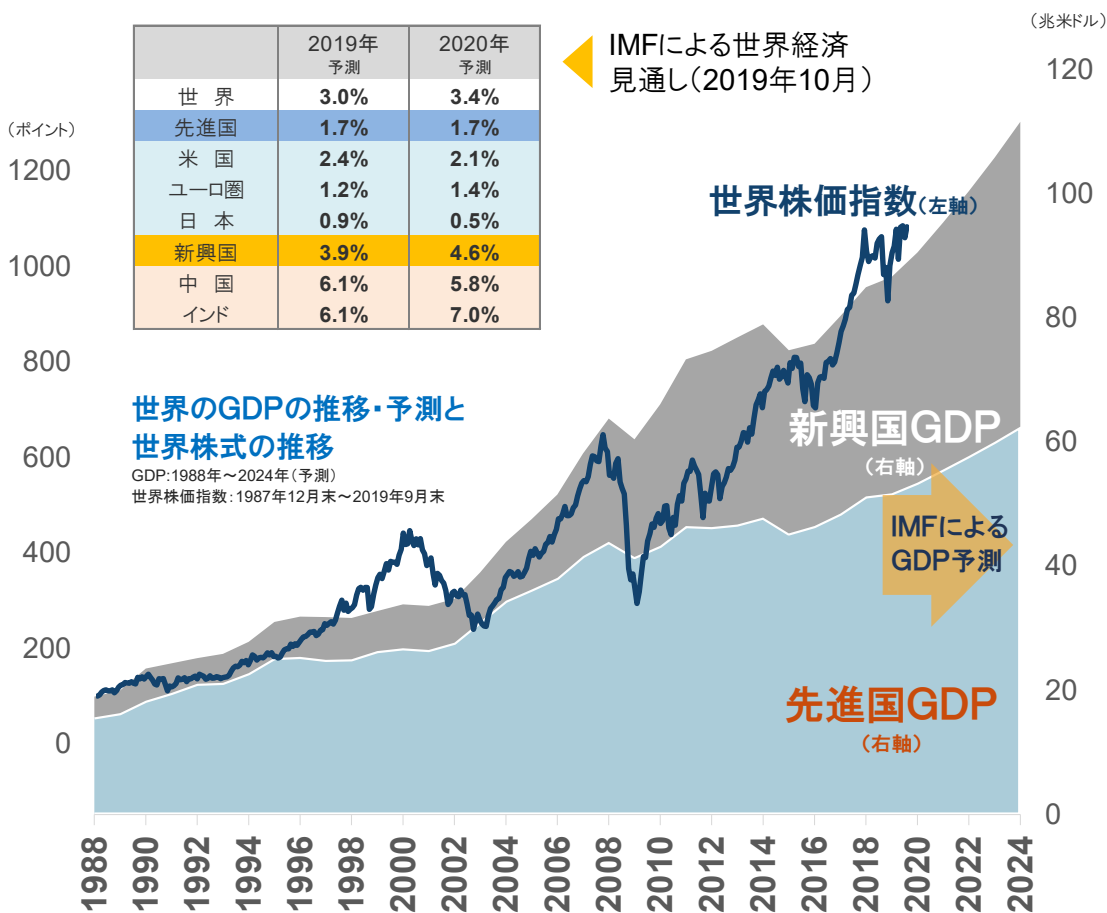
コールセンターからの小さなよみもの

世界経済は右肩上がり

経済成長がプラスということは、去年より今年がより豊かになっていくということです。つまり、世界経済は“右肩上がりを継続中”ということです。

私達に「より良い暮らしがしたい、より良い商品やサービスが欲しい」といった欲がある限り、企業はそれに応じてビジネスしようと努力します。その力を集積したものが経済です。

下図のように世界経済の拡大と株価とは同じように推移してきました。短期的には上にも下にも行き過ぎることはあるものの、長期で見ると経済の拡大に寄り添って株価は上昇していることがわかります。



●IMF「World Economic Outlook Database, October2019」および信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。●世界株価指数はMSCI ACワールド指数(配当込、米ドルベース) ●グラフ・データは過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

先を見た資産運用を

GDPという大きな話でなく、より小さな視点の企業業績で見ても同じ傾向が見て取れます。例えば米国企業の株価は、長期的には企業の1株当たり利益と同じように推移する傾向がみられました。そして今、米企業は全体として今後の増益が見込まれています。

相場環境が激しく変動する中、目先の動きで一喜一憂してしまいがちですが、改めて先を見た資産運用を行ないたいものです。

米企業(S&P500指数)の1株当たり利益と株価推移

(2000年1月末～2019年9月末、月次/1株当たり利益は2020年まで)
※予想については2019年10月21日時点



- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
- 上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00

